

## 災害

3ヶ月あまりの1学期の間に、いろいろなことがありました。

ここ宇治でも大きく揺れた大阪府北部地震、西日本の広い範囲に甚大な被害をもたらした西日本水害など、自然災害が続きました。日本のどこにいても地震や大雨の被害は起こりうるものだという事を、あらためて思い知らされました。お亡くなりになった方の御冥福をお祈りするとともに、今なお不自由な生活をされている被災された方にお見舞いを申し上げます。

広島市で亡くなった高校3年生の植木将太郎君は、自宅に押し寄せた土砂の中から10日後に見つかったそうです。まだ何十年も続くと思っていた命が、突然絶たれたわけです。無念と思う間もなかったのだらうと思います。捜索には、同級生が加わっていたそうですが、遺体が見つかったときの同級生達の気持ちは、いかばかりであったらうかと思います。

そして、この暑さの中、避難所に暮らし、懸命に復旧活動を行っている人など、今なお不自由な生活を余儀なくされている方たちが大勢います。その中には、皆さんと同じ高校生もいます。暑い中ですが、今、こうしてそろって終業式を迎えられているのは、とても幸せなことなのだと思います。末長い支援のためにも、関心を持ち続けていくことが大切だと思います。

そして、災害はいつでも、どこでも、誰にでも起こりうるものだと肝に銘じて、準備しておくことが大切です。

(平成30年7月 1学期終業式の式辞から)